問い合わせ先
海上保安庁海洋情報部海洋調査課
課長補佐　矢島　広樹
電話　03-5500-7126

平成２７年９月１８日
海　上　保　安　庁

西之島の火山活動の状況（９月１６日観測）

９月 16 日、羽田航空基地所属航空機（MA725 みずなぎ）により、西之島の火山活動の観測を実施した。

１．噴火の状況

火砕丘にある火口および火口縁周辺の噴気帯から青白色～白色の火山ガスが連続的に放出されていた。火口からの噴煙は認められなかった（図１，２）。

火口内には新たに小火砕丘が形成されていた。噴気帯には黄色の火山昇華物が分布していた。

溶岩は、火砕丘北東斜面の麓にある複数の流出口から、西、北東、火砕丘の東側を回り込んで南西の３方向に地表を流下していた（図３，４）。また、溶岩は、溶岩トンネルを経由して東方へもわずかに流れており、時折東海岸では水蒸気が上がっていた（図５）。

西之島の周囲には褐色の変色水域が海岸線に沿って幅約 200～300mで分布しており、さらに西方沖合に広がっていた（図６）。

西之島の火山活動は引き続き継続しており、今後も噴火による影響が及ぶおそれがあることから、西之島及び周辺海域（島の中心から半径４km の範囲）においては、付近航行船舶へ引き続き航行警報により警戒を呼びかけている。

２．新たに形成された陸地の状況

前回（8 月 19 日）の当庁航空機による観測と比較して、波浪による浸食と思われる海岸線の後退が認められ、面積はわずかに減少した（図７参照）。

同乗した東京工業大学火山流体研究センターの野上健治教授からは、

「火口縁にできた噴気帯は先月よりも拡大して、硫黄と考えられる火山昇華物が広範囲に

分布している。

　噴気帯からは青白色の火山ガスが連続的に放出されていることから、噴気帯への火山ガスの漏れ出しが続いて、噴火の原動力となるガスが火口直下に溜まらなくなり火口での噴火が極端に減少したものと推察される。

　変色水も島の周囲に広範囲に発生しており、溶岩の流出は依然として続いていることから、噴火回数は減ったものの、火山活動は以前と大きな変化はなく活発な状態が続いているものと考えられる。」

とのコメントが得られた。

※９月１６日時点での形状（暫定値）

・東西：約 1,950 m（8 月 19 日時点　東西：約 2,000m）

・南北：約 1,950 m（8 月 19 日時点　南北：約 2,000m）

・面積：約 2.67 平方 km、東京ドームの約 57 倍

（8 月 19 日時点　約 2.71 平方 km、東京ドームの約 58 倍）

（参考）西之島全体の面積（旧西之島を含む）：約 2.68 平方 km

（噴火前の西之島の約 12 倍）

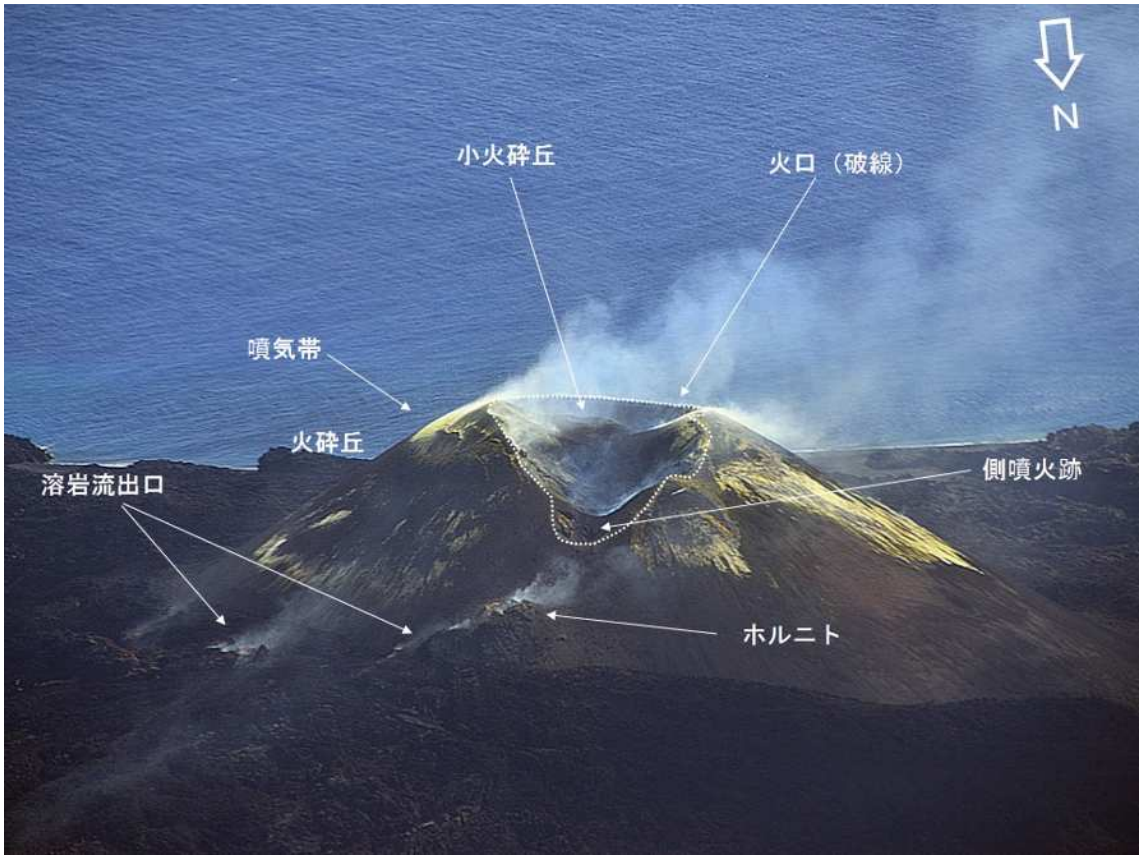

図１　火砕丘の火口と噴気帯（９月１６日撮影）

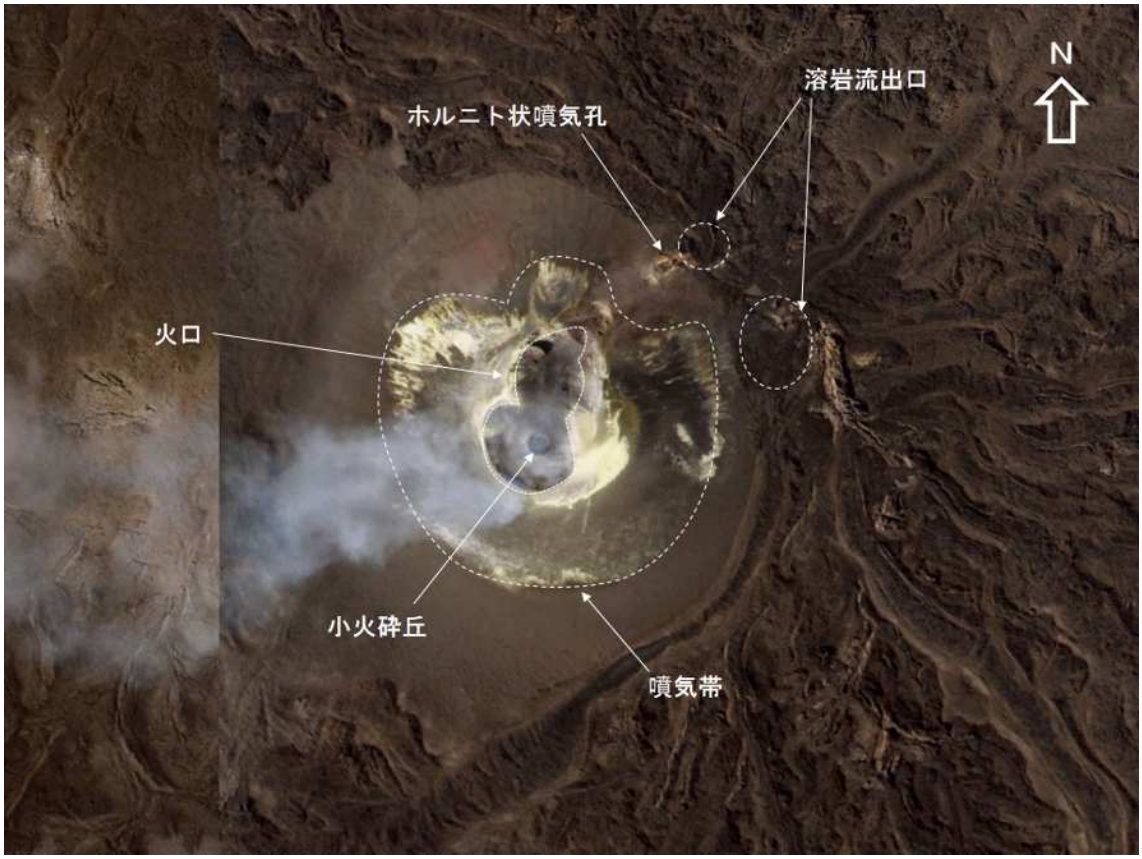

図２　真上から見た火口周辺の様子（９月１６日撮影）

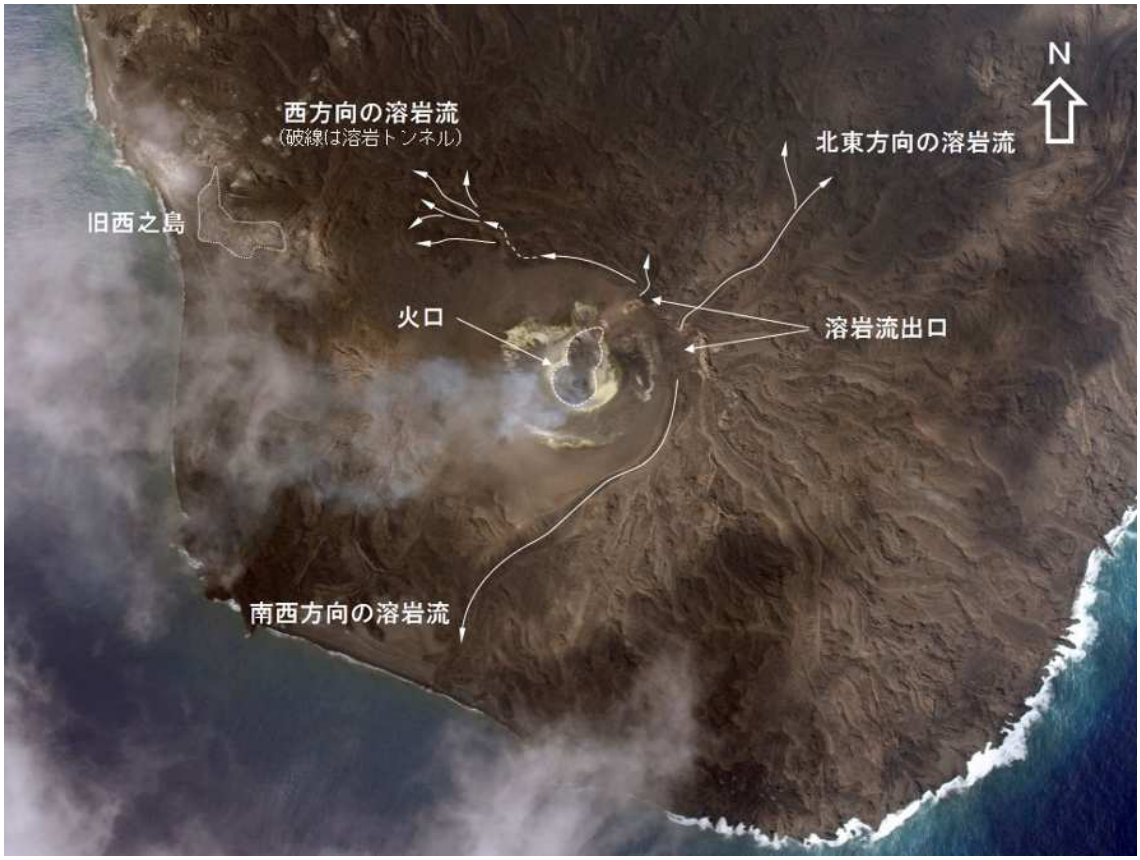

図３　溶岩の流れ（９月１６日撮影）

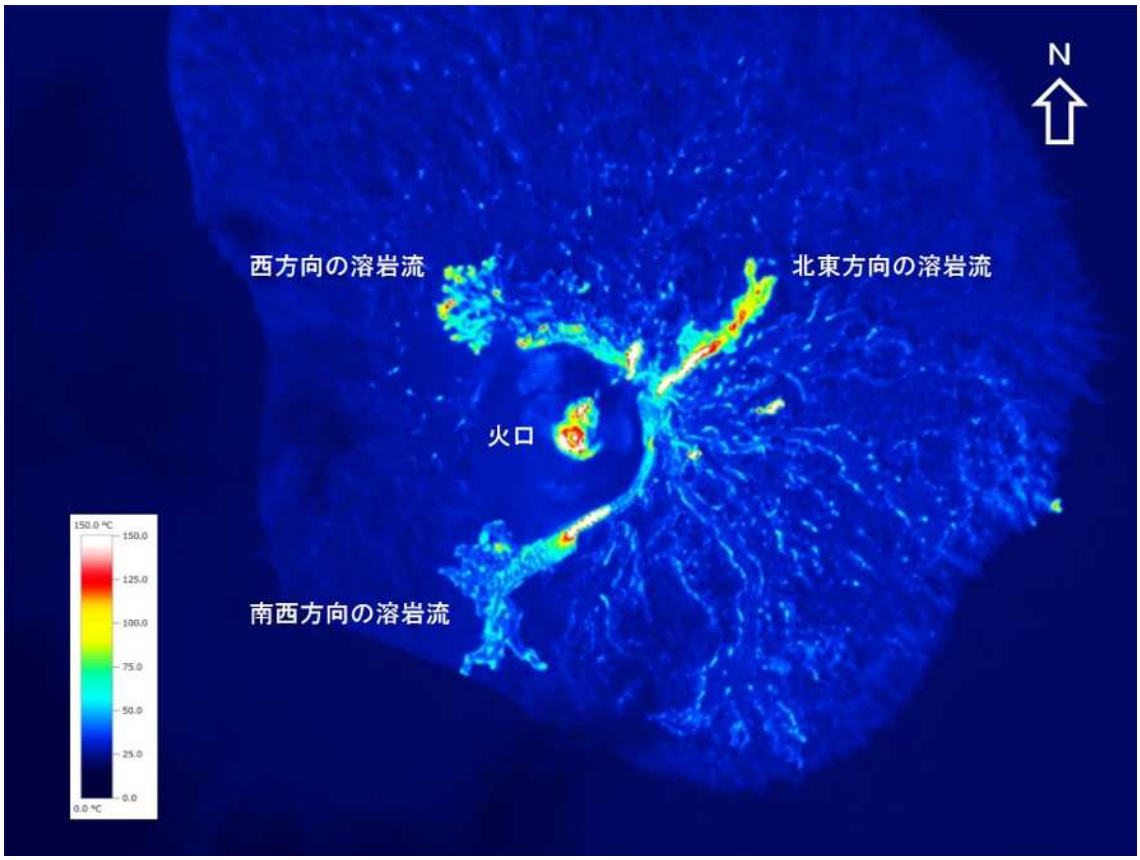

図４　熱画像の解析結果（９月１６日撮影）

図５　東海岸からの水蒸気の放出（９月１６日撮影）

図６　西之島周囲の変色水域の分布（９月１６日撮影）

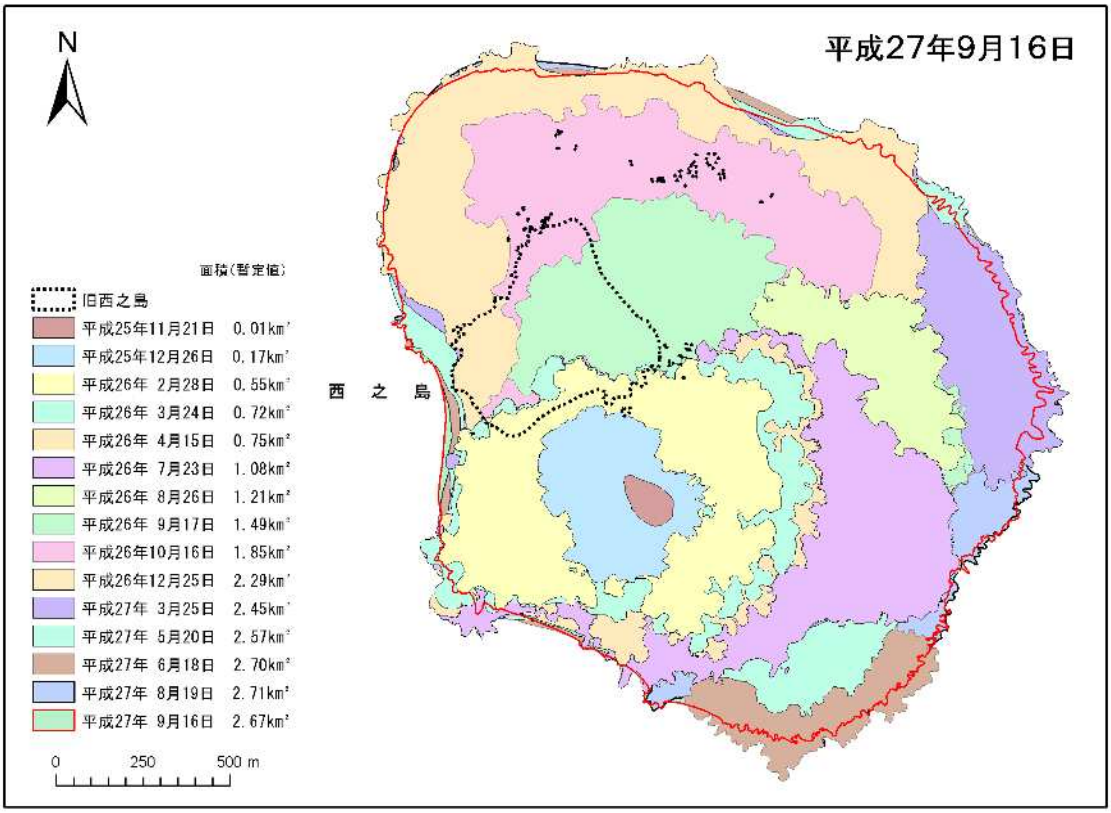

図７　新たに形成された陸地部分の形状変化の様子

赤線は９月１６日現在の陸地の外縁